

篠原房枝作 「修学旅行」

効果音 (バスの音)

ガイド 今、走っておりますこの通りが、堀川通りでございます。もうしばらく参りますと、この先左手に二条城が見えてまいります。二条城は徳川家康の京における館^{やかた}として造営されたもので、15代将軍慶喜の大政奉還の場として史上に名高いものでございます。はい、見えてまいりました。この建物が二条城です…。(FO)

ナレーション 青春高校の3年生は、4泊5日の修学旅行で、第1日目、ここ京都にきています。

吉田^{ゆうこ}裕子 わー、ここが二条城?! いいな、京都って。わたし、初めてなの。

順子 本当? そう言えば、裕子は付属の女子校で、中学の時は北海道だったんだっけ?

裕子 そう。だから男子も一緒に旅行なんて初めてなの。共学になって1年たったけど、正直言うと多少不安。

順子 大丈夫よ。それより、たった1回きりの高校生活の修学旅行、大いにエンジョイしなくちゃ。

山田 おい、順子、何話してんの?

順子 あ、山田君。あのね、この旅行を楽しもうって話。

山田 そうだな。おれも同感! ま、みんなで楽しくやろうや。あとで、青木たちとお前たちの部屋へ行くから…。

ナレーション 一行は、1日目の見学を終え、宿泊する旅館に着きました。

先生 いいか、今から食事をし、そのあとの就寝時間までの自由時間を使って、各自決められた場所に入浴すること。今日は、旅館からの外出は禁止だからな。それから、10時に点呼を行うから、全員必ず自分の部屋にいるように。分かったな? えー、それと、各部屋のリーダーは、貴重品を…。(FO)

青木 おい、10時点呼だってよ。そのあとは、先生来ないだろうな。

山田 ああ、多分な。先生たちだって参っているからな。大丈夫だよ。

青木 そうだな。なら平気だ。予定どおり、宴会をやりませんか?(笑い)

山田 バカ! 声がでかいぞ。事を起こす前に、取り上げられちまうよ。

青木 悪い悪い。だけど、夜が待ち遠しいですねえ。

音楽 (ブリッジ)

裕子 ねえ、順子。ほんとに山田君たち、来るの?

順子 何よ、裕子ったら。イヤなの?

裕子 ううん、そんなんじゃないけど。ね、点呼のあとはまさか来ないでしょ?

由美 あっきた! 裕子はまるで何も分かっていないのね。そもそも修学旅行なんていうのは、普段やれないことができる唯一の時なのよ。堅いこと言ったら、何も楽しめないの。

裕子 そうなの? でも先生は…。

順子 あーあ。大丈夫よ。由美とわたしで裕子にいろいろ教えてあげる。

効果音 (ドアをノックする音)

順子 ほら来た! どうぞ。

効果音 (ドアを開ける音)

山田 オッス! お邪魔しに参りました。

青木 はいこれ、手土産です。

由美 サンキュー。わあ、ずいぶん持ってきたのね。1日目なのよ。あと大丈夫？

青木 平気平気。心配するなよ。それよか、早く袋 開けろよ。

由美 オーケー！ あら、小林君、そんな所に立っていないで、中に座んなさいよ。

小林誠 ああ。

順子 ねえねえ、何かやらない？ トランプ？ 花札？それともダベリング？

山田 そうだなあ。やっぱり外出したいな。

誠 何言ってるんだよ。しょっぱなからそんなことして見つかったら、こっぴどくやられるぞ。規則はできるだけ守らなきゃあ。

青木 なんだよ、小林。落ち着けよ。山田が本気じゃないことぐらい分かるだろう？

順子 そうよ。小林君おかしいわよ。大体、今そんなこと言っているようだったら、これから先、何もできないわよ。せつかくの修学旅行よ。少しぐらい羽目を外さなかったら、面白くないじゃない。

誠 それは、少し修学旅行の意味を取り違えてんじゃないかなあ。

順子 何言ってるのよお。頭古いわねえ、小林君。

由美 まあ、もうその辺にしたら？ ごちゃごちゃ言ってもつまらないだけ。それよか、早く手を出さないと、この岡氏、わたしが全部片付けちゃうわよ。

青木 おい、そりゃないよ。おれたちが持ってきたんだぜ。

山田 そうだ。これは、おれたちが食べる権利があるの。

順子 アーラ、そうは問屋が卸しませんよ。ほら、裕子。あなたも黙ってないで口開けなさいよ。

ナレーション …という具合に、あまり気乗りしていない小林君と裕子さんにはお構いなく、ほかの4人は、ワイワイと楽しく修学旅行の1日目を過ごしています。そしてあつと言う間に点呼の10時になってしまいました。

誠 おい、もう10時だぞ。もう部屋に戻らなきゃいけないよ。

順子 そうね。ここでガタガタ言われると、あとで来づらくなるわよ。

青木 そうだな。ま、またあとで来るんだから、今はさっさと部屋に戻って、先生を待ちますかな。ほら、山田、行くぞ。

山田 あ、うん。ちょっと待ってくれよ。あと一口だけ。

由美 全く。食い意地^{おうせい}字だけは旺盛なんだから。早くしなさいよ。

山田 分かったよ。それじゃまたあとでな。

効果音 (ドアの閉まる音)(間)(ドアの開く音)

先生 (オフから)おい、この部屋は3人いるか？ 顔を出しなさい。

順子 はい。(ドアを開く音)ご覧のとおり、3人ともいます。

先生 よし。明日の朝は早いからな。騒がないでさっさと寝るんだぞ。

由美 はい、分かりました。それでは先生、お休みなさい。

効果音 (ドアの閉まる音)

順子 あー、「日程通り」はここまで。これからが楽しいのです。ねえ、由美？

由美 そうなのです。山田君たち、「割と持ってきた」と言ってたでしょ。順子飲める？

順子 まあまあ。洋酒のほうが好きだけど。裕子、あんたも付き合うのよ。

裕子 え、お酒？ わたし飲んだことないもん。

由美 大丈夫よ。あんなもの気分で飲めるんだから。心配しないってば。
裕子 でも…。
ナレーション そのうちに、ドアが開いたかと思うと、例の3人の男子が入ってきました。
山田 おーい、来たぞ。ほら角瓶。
青木 おれ、G&G。ワインもあるぜ。
由美 へえー、山田君、タバコもやるの。
山田 まあな。おい、小林、お前も今日は吸うんだろ？
誠 いや、僕は酒もタバコもやらない。
順子 ヤだー。小林君って堅いのね。
青木 まあいいって。さっさと宴会始めようぜ。ほら、コップ。お、よしだ、お前も飲めよな。
裕子 わ、わたし？ ダメよ。全然飲んだことないんだもん。
山田 ほーんと？ これは重要文化財！ やっぱ、由美たちみたいのばかりじゃないんだな。
由美 ひどいんだ。自分なんか、慣れた手つきでタバコまで吸っているくせに。
順子 そうよ。でも、今日はその裕子を我らの仲間にするの。
誠 「飲めない」と言ってんのにやめろよ、そんなこと。
順子 まあコワイ、小林君の顔。ま、いいわ。それじゃわたしたちだけで始めましょ。さ、山田君、どうぞ。
ナレーション …という具合に、彼らは酒を飲み、タバコを吸い、ガヤガヤワイワイ、次第に酔いが回ってきたようです。そのうちに――。
順子 (酔い口調で)ねえ、裕子、いいでしょう、いっぱいぐらい？ ほら、おいしいんだから、飲んでごらんよ。
誠 よせったら。かわいそうじゃないか。
山田 (酔い口調で)お、小林。紳士だねえ。自分は酒もタバコもやらないのに付いてきたのは、実はこういう訳ですかあ。
一同 (笑い)
青木 お、お、裕子、赤くなったぞ。さ、飲んでみろよ。最初は薄めにしてやるからさ。
裕子 ダメ。わたし、本当にダメなの。
青木 へへ、そんなこと言わねえでさあ。(無理に飲ませようとする)
誠 やめないか！
青木 何すんだよオ。邪魔すんなよオ。
山田 小林、余計なことすんなよ。
効果音 (「がチャン」とグラスの割れる音)
誠 あ！
裕子 小林さん、小林さん、大丈夫？
山田 こ、小林、大丈夫か？
ナレーション 押さえた小林君の右手の指の間から、真っ赤な血が流れています。無理に飲ませようとする青木君から奪おうとして割れたグラスで傷つけたのです。
青木 ヤヤヤ ヤバいことになったなあ。おい、どうする？ 先生呼んだらバレちゃうし、退学もんだぜ。
順子 でも、やっぱり呼んでくるわ。小林くんの手、早く手当てしないと。

由美
誠

順子、行きましょ。(と立ち上がる)

待って！ い、いいんだ。血はすぐ止まるよ。それよりみんな、ちょっと聞いてくれ。今度の旅行はできるだけ思い出に残る楽しいものにしようって、僕たちはいろいろと準備してきた。それに吉田さんと僕は今度の旅行が事故もなく最後まで守られるように、ずーっと祈ってきたんだ。僕たちは、これまで厳しい受験勉強に明け暮れしてきた。だからみんなが、この旅行で羽を伸ばしたい気持ちも僕なりに分かる。だからこうやって羽目を外しているのも、黙って見てきた。だけど、節度を超えちゃいけないよ。アルコールの力で人に嫌がることをやらせるのは卑怯だ。酒、タバコ、そんなつかの間の楽しみを追って、あとに一体何が残るんだ？(間)なあ、みんな、今度の旅行、僕たちの力で、本当に実りのあるものにしようじゃないか。この傷を見て、みんながもう一度考え直してくれたら、この痛さも軽いもんさ。

裕子
ナレーション

小林さん…。

山田君も、青木君も、順子も由美も、いつしか顔をうなだれて、じっと聞き入っていました。もし皆さんがその場にいたら、青木君の目にキラッと光る者があったことに、気づいたに違いありません――

<完>